



お客様

むけ

元氣通信

丙午 初春のお慶びを申し上げます



お客様、こんにちは。お正月はいかががおすごしでしたでしょうか？
本年もよろしく願います。

今年は丙午ですが、十干の「丙」も十二支の「午」も属性は「火」であることから、エネルギーが増大し、勢いが増していく飛躍の年といわれ、これまで停滞していたことが動き出し、目標を持ってチャレンジすることで大きな成果が出やすいとされています。また新しいことに取り組むにも成果が出やすく良い年でもあるそうです。一方、そのエネルギーの強さゆえに衝動的な行動や無益な争いを引き起こす可能性も秘めていることから、一步引いたことから静観する必要もありそうです。

また今はあまりそのようなことは言われなくなりましたが、昔は丙午の女性は気性の激しさゆえに結婚に向かない、などという迷信も生まれ（どうも、かの「八尾屋お七」が丙午生まれだとされたことから端を発したようですが）過去にはこの丙午年は出産率が低下したこともあったようです。何とも迷惑な話ですが、人間の営みには常に目に見えない何かの力が働いているということは、あながち否定できないとも感じています。

さて、昨年は長年自民党と連立を組んでいた公明党の離脱、維新との新たな連立、そして初の女性総理大臣が誕生というトピックがありました。国会中継を見ると、相変わらずの揚げ足取り的な発言はありますが、これまでよく見られていた、パフォーマンスなのかよくわからないけれど声高で威圧的な質問の仕方をしていた議員が、様子を見ているのか、もしくはあまり激しい言動すると世間からの批判が飛んで来る（かもしれない）ことを恐れてなのか、真相はわかりませんが、心なしか穏やかな言い方になっているように感じます。

いずれにしろ自分たちの覇権争いとも見える論戦に時間を費やすのはやめていただき、国内外で直面している待ったなしの課題の解決に向けて力を注いで頂きたいものです。

話は変わりますが、醸造機械メーカーで組織されていた「全国醸造機器工業組合」（以下機器組合）と醸造用資材を中心に取り扱いを行っている企業で組織されていた「日本醸造用品組合」（以下用品組合）が昨年の九月に統合し、「日本醸造機械用品商工組合」として新たなスタートを切りました。

これまでこの両組合は各々の活動の他に「醸造機械・用品総合カタログ」の発行や実際の機械装置や醸造資材・用品などを見ることができ「醸造機械・用品展示会」の開催を合同で行ってきました。統合前の組織の歴史としては、「機器組合」は国からの機械生産資材割り当て支給の受け皿として、一九四七年に発足し、その後六八年には通産大臣の認可を受けた組合となり、以来活動を続けてきました。そして用品組合は機器組合より先の一九二一年に発足し、以来百年余にわたり活動を続けてきました。

今後は両組合が永年にわたり培ってきた醸造機械・用品の製造・販売の開発力やノウハウなどの強みを統合によるシナジー効果で一層強化し、醸造業界の発展に貢献できる組合としての活動を行う所存です。

いずれ正式なご案内をさせていただきますが、今年は広島において「醸造機械・用品展示会」を開催するべく実行委員会を立ち上げ、準備を進めておりますので、是非皆様お立ち寄り頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。



初めての経験

■【山歩きにはまっています】

総務部 主任 川勝 麻子

ここ数年、ちょっとした坂道でも息が切れるようになり、登山に挑戦しても頂上手前でギブアップ。自分の体力のなさを痛感しました。体力をつけようと平地を歩いたりいろいろ試しましたが、なかなか続きませんでした。そこで「歩くだけじゃつまらないな」と思い立ち、近くの山へ出かけました。

弥彦山や角田山など、山々を登っています。低山でも侮れません。最初のうちは息も上がり足も重く、景色を楽しむ余裕なんてありません。しかし、回数を重ねるうちに体が慣れ、「あれ、山ってけっこう楽しいかも」と思えるようになりました。

今年は新緑の季節から登り始め、月に 1～3 回のペースで続けています。実は秋の山歩きはこれが初めてでした。木々の色づきや澄んだ空気に、季節の移り変わりを肌で感じ、気持ち良かったです。最近では地図（紙地図は読めないのに地図アプリ）を眺めながら「次はどの山に行こうかな」と登山計画を立てる時間も楽しみのひとつです。ただ、近年は熊の出没情報もあるので、熊鈴など付け、注意しながら歩いています。

冬になると、雪の積もった山の景色も気になり始めます。真っ白な山道を歩く自分を想像するだけで、ちょっとワクワクします。まだ雪山登山には挑戦できませんが、冬の山の景色を思い浮かべながら、次の山歩きを楽しみにしています。



↑八枚沢登山口 2025.11



↑弥彦山山頂 2025.11

■【エイプリルフール】

総務部 神田 直枝

居酒屋をやっていた幼なじみが、カラオケマイクを持って遊びに来ました。(夢〇〇〇〇得点付)男歌を不思議な魅力で色っぽく歌ってくれるので懐かしい記憶がフラッシュバックして、あの時の後景が見えてきます。

「私だけ愛してたこと」彼女が歌うと「私だけが彼を愛してたこと」に思えて切なく聞こえます。同じ楽曲でも歌う人で「私だけを彼が愛してたこと」全く逆に感じたりするものなんですね。

「聞いてるだけではダメでしょ」歌ったことのない私に「影法師、あんたに似合うから絶対上手く歌える」その気にするのが絶妙に上手い。カッコいいジェスチャーの仕草に、なんかドキドキしながら流されて歌っていた。70点78点85点 得点が出た。「ほら大丈夫」「マイク置いていくから楽しんで!」「いっぱい歌ってストレス解消できた」と帰っていきました。

翌日、早速習った通りに歌って見ました。 「91点」

【嬉しい～ 社長～ ありがとう!】

この日は4月1日だった。 「サービス♪ サービス♪」

スペイン語中間報告のつづき



島貫 修一

3カ国語ともに意味は同じで「私は戻らない、過去は過去だ（過去は過ぎ去ったことだ）」と言っているのに、日本語の歌詞は「輝いていたい、もう決めたの」で全然違う。英語・フランス語・スペイン語は同じヨーロッパの言語だから、語順は同じだし過去を意味する単語も The past、Le passe、El pasado と似ている。エルサが氷の宮殿を建てている時の歌詞は、彼女の心の中の決意を表す抽象的な内容で、ヨーロッパの3言語はそれぞれが独自の表現をしているが、歌詞全体としての意味は合っている。それに対して日本語は東アジアの異質の言語だから、同じ意味の歌詞にすると長くなり過ぎて曲の中に納まらなくなる。だから日本独自の歌詞にしたのだろう。

おっせん 初夢ではないけど、もしかしたら医師になっていたかも

島貴 修一



祖母が「孫を医師にしたい」と言っていたのを知ったのは数年前の事。親からは先祖が医師だったと子供の頃から聞かされてきたが、祖母の願望については何も言われなかった。初耳だ。

文政9年（1826年）生まれの高祖父（ひいひいお爺さん）は、江戸に留学して漢方医学を学んだ漢方医だった。安政5年（1858年）生まれの曾祖父（ひいお爺さん）は、明治時代の医学校で西洋医学を学んだ内科医だった。しかしその跡を継ぐ長男は医学生（東京の医学校）の時に病死し、その時点で次男の祖父は就職していたため後継者が絶えてしまった。これを無念に思った祖母は孫に願いを託していたらしい。

明治生まれの祖母の言う医師にしたい孫とは男系男子（息子の息子）で、3人いるが各家の事情を考慮すると第1候補は私になってしまう。もしも親から将来は医師になれと言われていたら、その後の人生はどうなっただろうか。

当然ながら願いを叶えるのは学校の成績だ。中学校では成績上がるとボーナス支給という我家の実利的な教育方針のおかげで、成績は上位グループにいた。だから進学校に入るのは問題なしだが、その3年後に地方の国公立大学医学部受験と、そのまた6年後に医師国家試験がある。

今は偏差値が極めて高い超秀才が医学部を独占しているが、昭和の頃は超優秀な学生は医学部だけではなく法学部・工学部・経済学部・理学部など各学部分散していた。ならば本人の努力次第だが明確な目的があれば頑張るタイプだし、理数系は得意だったからもしかしたら合格（超楽観的な推論）できた・・・かな？そして祖母の願い通りに医師（たぶん内科医）として社会に貢献してきたら、それなりの社会的地位と経済力を伴った人生だったろう。しかしだ、それと引き換えに失うものも大きい。

お座りができた頃から続けてきた読書（最初は絵本）に加えて、10代後半から30代半ばにかけて、バイク・車（ジムカーナ）・空手・アーチェリー（洋弓）・写真・クロスカントリースキー・外国語（フランス語・英語）・東洋史・ミリタリー・丸太小屋（ログハウス）作りと趣味を広げ、人生をマルチに楽しんでた。ちょう

どこの期間の約20年が、受験勉強に医学部6年間と研修医と専攻医、そしてその後の医師としての研鑽と重なってしまう。

そうなれば日々の勉強と臨床経験で一人前の医師を目指す毎日になってしまい、多様な趣味を満喫するなんてありえないし、そんな時間も無い。そして結果として曾祖父と同じ様に、個人よりも医師としてできる事を優先する人生になっただろう。もちろんどちらの生き方にも優劣は付けられないが、好奇心のままに多方面な分野に挑戦し、楽しい事できる事を増やしてきた今の生き方だって、人生の終わりに「ああ楽しかった」と言えればそれで良しと思っている。

スペイン語中間報告

2013年（日本は2014年）の映画「アナと雪の女王」の主題曲 Let it go レリゴーは、多くの言語で歌われたので、英語・フランス語・スペイン語・日本語の歌詞を比べてみました。スペイン語はラテンアメリカではなくスペイン本国のスペイン語にしました。

映画の題名とその意味は

英語では Frozen：凍った・凍らせる

フランス語では La reine des neiges：雪の女王

スペイン語では El reino de hielo：氷の王国

日本語では「アナと雪の女王」

レリゴーは英語の Let it go：忘れる、手放す、過去の悩み・こだわりから自由になる

フランス語の歌詞は Liberee delivree：自由になった、解放された

スペイン語の歌詞は Sueltalo：解き放て

日本語の歌詞は「ありのままに」

映画の中でエルサが氷の宮殿を建てた後に、左手で髪飾りを外して投げるシーンの歌詞は、

英語では I'm never going back. The past is in the past.

フランス語では Je ne reviendrai pas. Le passe est passe.

スペイン語では Ya no regresare, El pasado ya paso.

